

0. 本レポートについて	p.03	3. 文化遺産オンライン登録の概要	
1. 本プロジェクトの概要		(1) 研修の概要	p.138
(1) 本事業の取組方針	p.05	(2) 登録作業の結果	p.140
(2) 業務遂行体制	p.07	4. 全体研修の概要	
(3) 全体スケジュール	p.08	(1) 実施概要	p.142
2. 現地調査・実地研修・撮影の概要 (11施設)		(2) 各講義概要	p.145
(1) 全施設共通事項	p.10	(3) ワークショップ概要	p.147
(2) 京都府立丹後郷土資料館	p.25	(4) 参加者およびアンケート結果	p.148
(3) 大山崎町歴史資料館	p.38	5. データ利活用プランの提言	
(4) 向日市文化資料館	p.48	(1) 利活用プラン検討の概要	p.160
(5) 与謝野町立江山文庫	p.59	(2) 利活用プラン案	p.161
(6) 与謝野町立古墳公園はにわ資料館	p.68	6. 次年度以降の方向性について	
(7) 舞鶴市立赤れんが博物館	p.77	(1) 本事業で見えてきた課題	p.165
(8) 舞鶴市郷土資料館	p.88	(2) 今後に向けた方向性	p.168
(9) 京都府立堂本印象美術館	p.99		
(10) 亀岡市文化資料館	p.111		
(11) 京丹後市立郷土資料館	p.121		
(12) 京丹後市立丹後古代の里資料館	p.123		

4. 全体研修の概要（1）実施概要

下記の趣旨および実施概要にて全体研修を開催。

1 趣旨

- 合同研修会はミュージアムに関わる先進的な取組紹介や京都府ミュージアムフォーラム加盟施設の抱える課題解決につながる講義、グループワーク等を行うことで、加盟施設の資質向上及び今後の取り組みに向けた新たな視点の獲得を図るため、令和3年度から開催している。
- 今年度は、文化庁事業を活用して、府内11の博物館施設で取り組む「京都ミュージアム連携による博物館収蔵資料デジタルアーカイブ推進共同事業」の取組発表をするとともに、デジタルアーカイブに関わる講師による講義やワークショップを実施した。
- 全体研修を通して、参加者それぞれが自施設の状況に応じたデジタルアーカイブの意義を理解し、必要な技術・知識を身につけ、今後どのように取り組みを進めていくかを具体的に描くことができる契機とした。

2 実施概要（リアル・オンライン ハイブリッド開催）

【京都府ミュージアムフォーラム第5回合同研修会「デジタルアーカイブ全体研修」】

- 日時：令和8年2月9日（月） 10:00～16:20（受付開始9:30）
- 会場：京都府立京都学・歴彩館 小ホール（〒606-0823京都市左京区下鴨半木町1-29）
- 対象：京都府内ミュージアム関係者、石川県内博物館関係者（京都府と石川県の連携協定※による）、京都府内自治体の文化・教育担当職員
- 費用：無料（要申込）
- 主催：京都府・KYOTO地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会
- 運営：「デジタルアーカイブ全体研修」運営事務局 大日本印刷株式会社（DNP）

※：石川県との連携協定

令和5年12月4日、京都府と石川県は「文化の振興等に係る連携・協力に関する協定」を締結。博物館学芸員の交流や相互派遣等に取り組む。

4. 全体研修の概要（1）実施概要：タイムスケジュール

2026年2月9日 全体研修におけるタイムスケジュールは以下の通り。

開始予定時間	所要時間（分）	プログラム
9：30		受付開始
10：00	10	開始・ガイダンス
10：10	5	開会挨拶
10：15	10	【報告】京都府・KYOTO 地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会事務局/ 京都府文化生活部文化政策室 主任 中西 俊介氏 「京都連携デジタルアーカイブ事業の取組状況について」
10：25	20	【報告】大日本印刷(株)による本取組概要
10：45	25	【発表】堀内 保彦氏（NPO法人フィールド 代表） 「持続可能な資料撮影・デジタル化の方法について ～実地研修の取組から～」
11：10	40	【講義】村野 正景氏（静岡大学情報学部情報社会学科 准教授） 「これからの博物館に求められるデジタルアーカイブ ～活用を見据えたデジタル化～」
12：00	60	昼休憩
13：00	40	【講義】内田 剛史氏（早稲田システム開発株式会社 代表取締役） 「多様な事例から学ぶ、デジタルアーカイブの始め方と続け方」
――ZOOMによるオンライン配信は終了――		
13：40	20	ワークショップ準備時間
14：00	50	ワークショップ1回目
14：50	10	入替え（席移動）
15：00	50	ワークショップ2回目
15：50	10	入替え（席移動）
16：00	20	総括・閉会の挨拶
16：20		退出

- ワークショップテーマ
- ①博物館資料の撮影実践：堀内保彦氏
 - ②3D技術を活用したデジタル資料の活用方法：村野正景氏
 - ③デジタルアーカイブの教育等への活用：田尻智大氏
 - ④博物館デジタルアーカイブ計画づくり：内田剛史氏

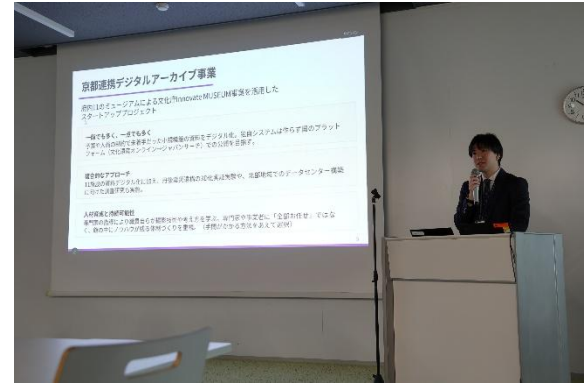
4. 全体研修の概要（1）実施概要：会場風景



▲会場の様子



▲開会のご挨拶



▲事業報告の様子



▲講義中の様子 質疑応答



▲昼食休憩中の交流



▲ワークショップのまとめ、閉会

4. 全体研修の概要（2）各講義概要：実行委員会からの報告

京都連携デジタルアーカイブ事業の取組状況についての報告

KYOTO 地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会事務局
/京都府文化生活部文化政策室 主任 中西俊介



京都府内11施設のミュージアムが連携し、デジタルアーカイブ事業を推進。人材育成と持続可能性を重視し、現場職員が撮影技術を学ぶ体制を構築。小規模施設であっても資料を国のプラットフォームで公開することを目指し、まずは「やってみる」精神で課題に挑戦した。

大日本印刷株式会社 富塚佑樹



11施設でのデジタルアーカイブ事業をマネジメントした内容を施設ごとに報告。職員向け研修と大量資料の効率的撮影を両立し、デジタル化を完了。現場の意欲や課題（人手・予算・機材運用）を把握し、今後も自走できる体制づくりの重要性を強調した。

4. 全体研修の概要（2）各講義概要：外部講師による講義

堀内 保彦氏 NPO法人フィールド 代表

発表：持続可能な資料撮影・デジタル化の方法について～実地研修の取組から～



学芸員が短時間で基礎画像をストックできる撮影手法を指導。フェザーライティングやテザーモード撮影、ピクセルシフト撮影など現場に即した技術を紹介。ファイル名やメタデータ管理の重要性も強調し、持続可能なデジタル化を提案した。

村野 正景氏 静岡大学 情報学部 情報社会学科 准教授

講演：これからの博物館に求められるデジタルアーカイブ～活用を見据えたデジタル化～



デジタルアーカイブは単なるデータ蓄積でなく、知識が更新され続ける公共財と捉えるべきと提言。公開は完璧を求めず、まずは目録レベルでも進め、社会と共に知識を育てる「完成させない」オープンプラットフォームの重要性を説いた。

内田 剛史氏 早稲田システム開発株式会社 代表取締役

講演：多様な事例から学ぶ、デジタルアーカイブの始め方と続け方



小規模館の現場目線で、目録作成やデジタル化の壁・継続の壁を具体的事例とともに解説。Excel活用や箱単位の目録化、公開ルールの工夫など、無理なく一歩踏み出すための実践的なアクションプラン作成の重要性を示した。

4. 全体研修の概要（3）ワークショップ概要

堀内 保彦氏 NPO法人フィールド代表



●博物館資料の撮影実践

京都連携デジタルアーカイブ事業の現地研修で使用した撮影セットを会場内に持ち込み、11施設以外の参加施設の方にも現地研修と同様に撮影・デジタル化の方法を学ぶ体験を提供。

田尻 智大氏 大日本印刷株式会社



●デジタルアーカイブの教育等への活用

デジタル化した資料のデータの利活用方法として、主に「教育」をテーマに、多様な事例を展示と共にご紹介し、参加者の皆様に自館での具体的な活用イメージを描いていただくワークショップを実施。

村野 正景氏 静岡大学 情報学部 情報社会学科 准教授



●3D技術を活用したデジタル資料の活用方法

丹後震災遺構などの3D化データを空間再現ディスプレイで体験。さらに、簡便な3D化手法のお試し、古写真のAIを用いた映像生成、他の産業への技術展開等について紹介し、博物館におけるデジタルデータの活用について意見交換を実施。

（協力：株式会社エリジオン、株式会社N Xワンビシアーカイブズ）

内田 剛史氏 早稲田システム開発株式会社 代表取締役



●博物館デジタルアーカイブ計画づくり

自館での「デジタルアーカイブの計画づくり」について、ワークシートを用いて具体的なアクションプランを策定、参加施設の皆様と共にブラッシュアップをするワークショップを実施。

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果

全体研修の研修会場における参加者数は27名。

No	所属	氏名	出欠	1回目 WS	2回目 WS
1			○	村野氏	田尻
2			○	村野氏	内田氏
3			○ ※PM のみ	村野氏	内田氏
4			○ ※AM のみ	村野氏	内田氏
5			○	村野氏	堀内氏
6			○	村野氏	堀内氏
7			○	村野氏	堀内氏
8			○	田尻氏	村野氏
9			× ※オンライン に変更	田尻氏	村野氏
10			○	田尻氏	村野氏
11			○	田尻氏	内田氏
12			×	田尻氏	内田氏
13			○	田尻氏	堀内氏
14			○	田尻氏	堀内氏
15			○	内田氏	村野氏
16			○	内田氏	村野氏
17			○	内田氏	田尻氏
18			○	内田氏	田尻氏
19			○	内田氏	田尻氏
20			○	内田氏	田尻氏
21			○	内田氏	田尻氏
22			○	堀内氏	村野氏
23			○	堀内氏	村野氏

No	所属	氏名	出欠	1回目 WS	2回目 WS
24			○	堀内氏	村野氏
25			○	堀内氏	田尻氏
26			○	堀内氏	田尻氏
27			○	堀内氏	内田氏
28			○	堀内氏	内田氏
29			○	堀内氏	内田氏

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果

全体研修のオンライン配信における参加者数は23名。

No	所属	氏名	出欠
1			○
2			×
3			×
4			○
5			○
6			○
7			×
8			○
9			○
10			○
11			○
12			○
13			○
14			×
15			○
16			○
17			○
18			○
19			○
20			×
21			×
22			○

No	所属	氏名	出欠
1			○
2			○
3			○
4			○
5			○
6			○
7			○

※事前申込の無い当日参加者(7名)

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果

全体研修終了後、リアル・オンライン双方の参加者に対し、アンケート調査を実施。

1. 参加種別を教えてください。*

- 京都府ミュージアムフォーラム加盟施設
- 京博連加盟施設（京都市内博物館施設連絡協議会）
- その他ミュージアム（府内、石川県）
- 自治体関係者

2. 参加形態を教えてください。*

- 現地
- オンライン

3. 合同研修会の満足度について教えてください。*

- 非常に満足している
- 満足
- 普通
- 少し不満
- 不満

4. 質問3の理由を教えてください。*

回答を入力してください

5. 研修プログラムを次の点で評価してください。*

	とても満足	満足	やや満足	やや不満	不満	どちらとも いえない
研修時間	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
実行委員会による事業取組報告	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
発表：堀内 保彦 氏（NPO 法人フィールド 代表）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
講義：村野 正景 氏（静岡大学准教授）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
講義：内田 剛史 氏（早稲田システム開発株式会社 代表取締役）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ワークショップ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

6. 実行委員会による取組報告や講師の発表内容に関して、ご質問・ご意見などあれば記載してください。

回答を入力してください

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果

全体研修終了後、リアル・オンライン双方の参加者に対しアンケート調査を実施。

7. 1回目に参加したワークショップを選択してください。*

- 不参加
- 堀内 保彦氏（NPO 法人フィールド 代表）のワークショップ
- 村野 正景氏（静岡大学情報学部情報社会学科 准教授）のワークショップ
- 内田 剛史氏（早稲田システム開発株式会社 代表取締役）のワークショップ
- 田尻 智大氏（大日本印刷株式会社（DNP））のワークショップ

8. 1回目に参加したワークショップの感想・ご意見をお聞かせください。

回答を入力してください

9. 2回目に参加したワークショップを選択してください。*

- 不参加
- 堀内 保彦氏（NPO 法人フィールド 代表）のワークショップ
- 村野 正景氏（静岡大学情報学部情報社会学科 准教授）のワークショップ
- 内田 剛史氏（早稲田システム開発株式会社 代表取締役）のワークショップ
- 田尻 智大氏（大日本印刷株式会社（DNP））のワークショップ

10. 2回目に参加したワークショップの感想・ご意見をお聞かせください。

回答を入力してください

11. 合同研修会に参加したことで、デジタルアーカイブについての理解度や取り組み意欲は高まりましたか？*

- 非常に高まった（よし、やるぞ！！）
- 高まった（なにか出来そう！）
- やや高まった（もう少し知りたいな）
- 変わらない

12. 質問11の理由を教えてください。

回答を入力してください

13. デジタルアーカイブの取り組みについて、現状最も課題に感じていることがあれば教えてください。

回答を入力してください

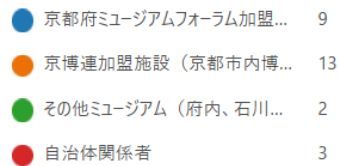
14. 今後どのような研修があれば参加したいですか？

回答を入力してください

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果 ※2026年2月17日時点の回答結果を基に集計しています。

アンケートは50名の参加者に対し54%の27名が回答。約89%の参加者が合同研修会について「非常に満足」「満足」と回答し、デジタルアーカイブへの理解度・取り組み意欲は100%の参加者が「非常に高まった」「高まった」「やや高まった」と回答。

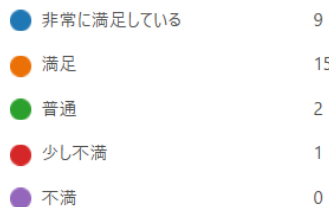
1. 参加種別を教えてください。



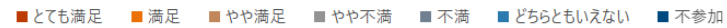
2. 参加形態を教えてください。



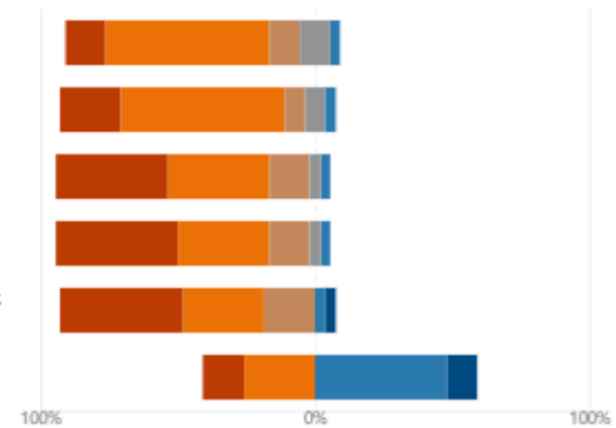
3. 合同研修会の満足度について教えてください。



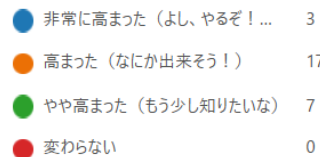
5. 研修プログラムを次の点で評価してください。



- 研修時間
- 実行委員会による事業取組報告
- 発表：堀内 保彦 氏（NPO 法人フィールド 代表）
- 講義：村野 正景 氏（静岡大学准教授）
- 講義：内田 剛史 氏（早稲田システム開発株式会社 代表取締役）
- ワークショップ



11. 合同研修会に参加したことで、デジタルアーカイブについての理解度や取り組み意欲は高まりましたか？



4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果 ※2026年2月17日時点の回答結果を基に集計しています。

「3.合同研修会の満足度について教えてください。」の理由に関して、回答は下記の通り（1/2ページ）。

最先端の状況と今すぐできることを学べて有意義だった、など概して満足度は高いものの、専門用語が難解に感じた、レジュメが欲しいといった意見も散見された。

合同研修会の満足度について教えてください。	質問3の理由を教えてください。
満足	各専門家の先生が実際のお仕事の内容等、具体的なお話を写真つきで、要点をとらえてお話してくださったのでとてもわかりやすく、 現場での仕事の進め方を具体的に考えるよい機会となりました。 ありがとうございました。
満足	デジタルアーカイブについての知見を得られたから。
満足	ふだん触れる機会のない専門的な視点でお話いただきとても勉強になりました。
非常に満足している	私自身のデジタルアーカイブの概念が大きく変わりました。 今回の研修は県内の博物館・美術館でも恐らくニーズがある内容だと思いました。
非常に満足している	デジタルアーカイブについては、所蔵品データベースの運用やフィルム作品のデジタル化について、館の課題となっていたので、関心をもって研修会に参加させていただきました。 どの館も潤沢な予算、人員がいるわけではないという共通認識のもと、いまずすぐできることをご紹介いただけたことが有意義でした。 膨大な資料を前に立ち尽くすことも多いのですが、まずはできることから少しでも進めていくことが大切だ、という気持ちになりました。
満足	駆け足に進められた部分をもっと拝聴したかったです（堀内氏や内田氏）。専門的なお話もあり、その用語についていくことができずに 消化不良に感じた部分 もあります。
普通	まだまだデジタルアーカイブ初心者の方には、内容が 少し難しかった 気がします。デジタルアーカイブの概念的な部分の説明はもちろん必要ですが、具体的な取組事例をもう少し時間かけて説明あった方が、より実感として頭にスッと入ってきたと思います。デジタルしたくてもできない府内の施設が抱えている課題にアプローチするという点では、とてもいい気づきや前進の機会になりますし、全体的には良かったと思います。
満足	館の現状をよく把握していただいた上で、 デジタルアーカイブの最先端と今できそうなこと・しないといけないことを分かりやすく学べた 研修でした。しかし、 知らないカタカナ言葉の多さには驚きました。 いちいちスマホで検索しながらお話をうかがっていました。
非常に満足している	デジタルアーカイブの理論、手法、現状など多角的に学ぶことができた。
普通	デジタルアーカイブをはじめる際の課題感がわかったため。
満足	デジタルアーカイブを始めるための流れがよく分かりました。実際に作業されている方のお話も聞いて良かったです。
非常に満足している	新しい視点をいただけたので、非常に満足しました。 デジタルアーカイブというと、資料の写真を撮影してネット上に公開してあるものという固定観念があったことに気づかされました。そして、この考えを持っていたためにデジタルアーカイブの必要性がわかっていなかったように思います。 みんなと一緒に資料を更新していく場を整えるものと捉えられたことで、デジタルアーカイブの可能性を感じられました。

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果 ※2026年2月17日時点の回答結果を基に集計しています。

「3.合同研修会の満足度について教えてください。」の理由に関して、回答は下記の通り（2/2ページ）。

最先端の状況と今すぐできることを学べて有意義だった、など概して満足度は高いものの、専門用語が難解に感じた、レジュメが欲しいといった意見も散見された。

合同研修会の満足度について教えてください。	質問3の理由を教えてください。
非常に満足している	デジタルアーカイブの本来の趣旨、デジタルアーカイブシステムの多くの事例を把握できる、大変充実した機械となりました。
満足	アーカイブへの取り組みの現場をみることができ有意義だった。
非常に満足している	多くの事例を紹介していただき興味深かった。
非常に満足している	実地に即しており、勉強になった。
満足	もう少し交流の時間があれば嬉しく思います。 企業博物館という立場から、自治体関係者の皆さまの取り組みが大変興味深く、ぜひさらにお話を伺いたいと感じました。
非常に満足している	困りが解消できたため
非常に満足している	ワークショップで実際に作業したり、詳しい質問ができた。
満足	様々な機関の方々と出会うことが出来て良かったです。
少し不満	内田報告以外は レジュメの配布がなく、用語も難解 なため、既に知っていることが前提とされているため判りにくい。かつ、配布がないためあとで調べることも難しいため。
満足	現状が1人でスキマ時間を使いながらエクセルでデータ入力をしている状況で、今後どうしていこうかと考えていた所だったので、 講義内容が現状と重なり課題解決のヒントを得ることができました。 本当は会場で実技も行いたかったのですが、業務の都合で参加できず残念。
満足	多くの具体的な事例を交え、実際の研修内容でよかったです
満足	実務的な説明が聞けたので現地参加できて良かったです。 時間が許せば、全てのワークショップに参加したかったので、『満足』で評価しました。
満足	実際の機材も含め、より実践に即した内容のレクチャーも受けることができたから
満足	デジタルアーカイブについて、予算がないなりにどう取り組めばいいのか、方向性がなんとなく理解できた。
非常に満足している	講義では、スケジュールの立て方など、 これから実行していくためのヒントを沢山いただきました。 また、様々な施設の方と交流し状況をお聞きすることができました。
満足	参加された各ミュージアムの方々と交流ができた。

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果 ※2026年2月17日時点の回答結果を基に集計しています。

ワークショップにおいては、参加者から下記のような意見が挙がった。

①博物館資料の撮影実践：堀内保彦氏

- ・ 深度合成のことがよくわかりました
- ・ 作業はわかりやすかったが、用語が難解だった
- ・ カメラメーカーの特色や操作方法についてとても勉強になりました。収蔵品に額装された資料があるので、その辺りのライティングや巻物の撮影方法も知れたかったです。
- ・ 自分で撮影作業を出来ると、もっとよかったが、短時間でわかりやすく教えていただけました。
- ・ 具体的に実践いただいたことで、なんとなくできそうだなという実感を持ってました。
- ・ カメラやパソコンの性能や価格など、細かいところまで聞くことができてよかった。

③デジタルアーカイブの教育等への活用：田尻智大氏

- ・ 教育等への活用に関する事例が大変参考になりました。あわせて、自然史系の事例についても知ることができて良かったです。
- ・ 印刷技術のすごさと教育普及のことがわかりました。
- ・ 魅力的な展示の実例にふれることができ、費用面などの課題はありますが今後の展示の方向づけに活かせそうです。
- ・ 博学連携は自館でも注力している取り組みであるため、興味深い内容だった。
- ・ 実践例を拜見できてとても楽しかったです。問題はどうか教育現場の理解を得られるかと予算面ではありますが……
- ・ webの学習用教材は、立体画像が見られたり、視覚的に時代が分かったり、何も知らなくても興味を持てる工夫がされていて、とても感心しました。webだからこそその学習アイデアだと思いました。
- ・ 新しい技術に触れて、面白く感じました。見せ方についていろいろなイメージを持てるようになりたいです。

②3D技術を活用したデジタル資料の活用方法：村野正景氏

- ・ 自分でできる簡易な3D、企業による3D、チャット、と盛りだくさんな内容でした。
- ・ 生成AIの使い方、3Dアプリの使い方など知見が広がりました。
- ・ 3Dを身近に感じることができ、実用性を確かめられたので、今後仕事に活かしたいと思います。ありがとうございました
- ・ 3Dスキャニングなど知ってはいたが具体的なソフトを紹介し、実際にソフトを初めて触れたのが良かった。

④博物館デジタルアーカイブ計画づくり：内田剛史氏

- ・ アクションプランの作り方を具体的にご教示いただき、現状の把握と今後の見通しを持つことができました
- ・ デジタルアーカイブを進めていくための計画を立てる難しさ、必要性を実感しました。
- ・ 自ミュージアムの収蔵品について考える良い機会になりました。細かい収蔵品が多い為、大枠でジャンル分けすることから考えることができて頭の整理ができたと思います。何から着手するか。を、これから考えたいと思います。
- ・ なるほどと思うことが沢山ありました。最初にプレスリリースをイメージすると急に現実感がわいて、できるような気がしました。
- ・ デジタルアーカイブについてアクションプランを策定する内容の研修でしたが、少し先の計画をたてることで、自分の中での目標が明確になってきたように思います。

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果 ※2026年2月17日時点の回答結果を基に集計しています。

「6.実行委員会による取組報告や講師の発表内容に関して、ご質問・ご意見などあれば記載してください。」については下記の通り。各講師の講義やワークショップの評価が高い一方で講義時間の短さが指摘され、資料配布やアーカイブ配信を要望する声が多く挙がった。また、他施設との交流を通じデジタルアーカイブが推進されることが示唆された。

- とくに内田先生のご講義が大変わかりやすく、現場職員にも伝わりやすいと感じました。府内の極小館でも共通認識が持てるとまちづくり全般に広がっていくと思われ大変興味深かったです。
- 各講師の持ち時間が限られている中で、必要事項が濃縮して詰め込まれていて、大変良かったです。
- 研修会の運営、大変おつかれさまでした。オンラインでの参加となり残念でしたが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- **もっと時間を十分に確保して、それぞれのお話を拝聴したかったです。**オンラインのためか、手元資料が、メールに添付された内容のみで、各氏の発表資料がなく、ついていくのが大変でした。資料の充実も検討いただきたいです。
- **取組報告がもう少し時間かけても良かった**と思います。デジタルアーカイブに参加していても他館の様子が具体的にわからないところがあるので、その辺り、もう少し共有があればより良かったと思います。
- さまざまな局面で「縮小」がみられ、あるいは民主主義のあり方が問われる現代において、博物館のあり方とデジタルアーカイブとの関連性について、その理念的なところを示唆するお話もあり、この点についてより深く伺いたいと感じた。
- 内田先生の講演しか聞けなかったため上記評価としました
- **内容に対して講義時間が短いからか、全体的に駆け足だった印象**です。
- デジタルアーカイブを進めるにあたって、学芸員でなければならない工程と、そうでない工程があるような気がしますので、そこを足掛かりに、**自治体職員や地域のボランティア・友の会・大学生の方々と分担して人手不足が解消できたら理想的だ**と感じました。一方で、業務の住み分けやリスク管理の整理は必須でしょうし、本当に人手を集められるのか等々考えるべきことはまだまだ尽きませんが、本日はデジタルアーカイブと向き合う機会をつくっていただきありがとうございます。
- 府内11の博物館での取組みを見させていただき、まずは利用者としてアーカイブを楽しめたらと思いました。弊所でも昨年アーカイブを公開し、今後も資料の追加を進めていくことになっていますが、追加業務のように感じてしまい、なかなか進んでいません。様々な事例を紹介していただきたいへん参考になりました。ありがとうございます。
- **もう少し講義の発表時間があればよかった。**
- 限られた時間でのご発表でしたため、参考文献や事例についてあらためて拝見したく存じます。可能でしたら、**スライド資料をご共有いただけますと幸いです。**
- 四つのワークショップ全て参加できなかったのは残念でした。いずれも参加したいと思える内容でしたので5のワークショップの項目は満足にしました。**全て参加したいと思える内容で素晴らしい講師の方を選ばれたのがすごい**と思いました。本日はお世話になり、ありがとうございました
- 配付資料がないのであれば、**後日配信などで復習出来る機会をもうけてほしい。**
- デジタルアーカイブを始めるにあたって、**多くの施設が同じ悩みを抱えていることを知れて、心強かったです。**名刺交換することができなかった方々と今後繋がっていく為に、**連絡先等開示していただくと有り難いです。**長時間の研修ありがとうございました。
- 内田さんのご講演後に、目録の作成はエクセルでなくマークダウンがよいのではないかと生成AI利用の観点から質問がありましたが、マークダウン記法での目録作成のイメージがあまり湧きませんでした(利用するエディタ等も含め)。実際にマークダウンで目録を作成するなら、具体的にはどのようなソフトウェアで、どのように作成していくのでしょうか？
- **内容が充実していたが、その分時間が足らなかったように感じた。**
- 画像を登録する手順なども具体的に知りたかったです。

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果 ※2026年2月17日時点の回答結果を基に集計しています。

「13.デジタルアーカイブの取り組みについて、現状最も課題に感じていることがあれば教えてください。」については下記の通り。予算、人材、技術、撮影環境等の課題のほか、自治体職員や組織全体としての共通認識醸成や、権利処理のハードル等の課題が浮き彫りとなった。

- 文化財保護などを担当する職員に上記の価値観（不完全なものを広く開き、みんなで作っていく）を理解していただきデジタルアーカイブへのモチベーションを高めてもらうハードルが高いと感じる。
- **予算、マンパワー、組織としての共通認識の醸成**
- 16mmフィルムの保管・デジタル化について。フィルム保管のための低温・低湿の環境の用意は難しく、収蔵庫に防湿庫を設置して保管しています。よって、長期的みるとフィルムの劣化はとめられないと思います。**フィルム作品のデジタル化を進めることが喫緊の課題**です。
- 第一に**予算**です。予算が確保できたとして、その次には**技術的な面**です。現在デジタルアーカイブを形成できる技術がありません。
- 当館の場合は、まず**機材**が必要です。来年度、カメラの購入予算がついたので、第一歩が踏み出せそうです。
- 「ショーウィンドウ」的取り組みまでたどりついていない点が課題に感じている。
- 現在、デジタルデータ（画像）の使用については、本市で設定したフローチャートに基づいた運用を各施設へ依頼しているところですが、使用の用途が明確ではない状況での自由な使用は難しいという考えから、**画像のダウンロードに制限がかかっている所蔵品が多数**あります。各施設の学芸員がデジタルデータの公開や使用に一定の理解を持っていただけるよう、今後、村野氏や内田氏などの有識者による講義やワークショップを開催していければと考えています。
- **メタデータの作成。英訳**など。
- 課題として、デジタルアーカイブを継続的に運用していくための**体制づくり**や、**AI**をどのように活用していくかが挙げられます。
- 図書・雑誌など紙資料について、どのようなシステムを使用して画像の撮影、公開をしていくのが望ましいか知りたいです。
- 開始と継続のための**資金繰りと人材の確保**
- S-NET、JSEACH等の公開プラットフォームに公開するに当たって、具体的な手続きを知りたいところ
- **周囲への理解や予算関係**
- そもそも文化財に触れる部屋においてあるパソコンがインターネットにもLGWANにも**接続できない**完全なスタンドアロンなのでデジタル化にかなり大きなハードルがある
 - ・ **人手が足りない**
 - ・ 文化財を撮影する**空間的余裕がない**
- **予算がほぼ取れない。**
- 旧字体や崩し字で手書きされたラベル情報をエクセルに入力していく作業がありますが、これを担う**人材が少ない**。年配の方は文字が読めても入力が極めて遅く、若い方は文字が読めない。
- **知識と技術**

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果 ※2026年2月17日時点の回答結果を基に集計しています。

「14.今後どのような研修があれば参加したいですか？」については下記の通り。デジタルアーカイブの構築・公開・活用に関するものから、AIを意識した取り組みについての興味が見られた。また、同様の研修・ワークショップを現地で受講したいという声も挙がっていた。

- 今回はオンライン参加でしたが、同様の研修やワークショップを、地域に出向いていただき担当職員や地域経営系の学生たちと一緒に受ける機会があればぜひ参加したいです。
- 発信力強化
- 紙の作品の保存修復の知識が得られる研修など。
- 国や府が奨励する事例や取組について、支援の在り方含めて、実践できると思わせてくれる内容を希望します。これからも継続し続けることができる博物館として、何ができるのか、考える機会がほしいです。
- DNPさんとフィールドさんの撮影研修の時もっと質問させていただけばよかったと後悔しています。実際の撮影の研修をお願いします。
- 今回の村野氏のような、デジタルデータの公開や使用について、知見のある有識者の方の研修があればぜひ参加したいです。
- デジタルアーカイブを継続的に運用していくための方法や、AIを活用した取り組みについて学べる研修があれば、ぜひ参加したいです。
- デジタルアーカイブの活用について
- 紙資料のデジタルアーカイブの構築に関するものなど
- 事業のために活用出来る補助金情報やシステム構築について
- AI時代を迎え、陳腐化しないデータベースづくりを知りたいです（Excelの汎用性に期待するのか、堀内さんが話されていたような写真データにIPCTタグをつける方法がよいのか？など）
- アナログ資料からデジタルへの変換をどの程度自動化できるのかも知りたいです（AIの能力は飛躍的に進展しているので古文書やくずし字の読解もできるようになってきている…）
- デジタルネイティブ、AI時代に、あえて実物、人間にしかできない博物館体験とはどういうものか？を追求するのも大事だと思います
- 博物館とコト消費にも焦点を当てていただけたら興味があります
- 目録規則に則したデータ作成
- 他機関目録データの共有や流用についての連携
- 展示の組み立て方、低予算でもできるアウトリーチの手法など
- 博物館の新設やリニューアル事業について。
- 撮りためた画像をweb公開していく具体的な手順を教えていただける研修があれば参加したいです。
- ミュージアム運営と関係する法律について